

病害虫発生予報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

4月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	糸状菌による苗立枯病 (トリコデルマ、リゾープス、 フザリウム、ピシウム)	並	—	果樹	リンゴのハダニ類	並	やや早い
	細菌による苗立枯性病害 (もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、 褐条病)	並	—		リンゴのリンゴコブアブラムシ	やや多い	並
					ニホンナシの黒星病	並	並
ばか苗病	少ない	—	ニホンナシのニセナシサビダニ		並	並	
大麦	雲形病	少ない	—		ブドウの黒とう病	並	並
	うどんこ病	やや少ない	—		ブドウの晩腐病	やや多い	並
野菜	タマネギのべと病	やや少ない	—		カキ(三社)のフジコナカイガラムシ	やや少ない	並
					モモのせん孔細菌病	並	並
果樹	リンゴの黒星病	少ない	並		花き 球根	チューリップの褐色斑点病	並
	リンゴの褐斑病	やや多い	並	チューリップのモザイク病		並	—
	リンゴのうどんこ病	やや多い	並	チューリップのアブラムシ類		並	並

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974
 情報参考 URL
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 水 稲

1 糸状菌による苗立枯病（トリコデルマ、リゾープス、フザリウム、ピシウム）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ 育苗資材の衛生管理と、育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
 - ・ 防除指針（29年度）：16～18 ページ参照

2 細菌による苗立枯性病害（もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 前年の褐条病の発生箇所率は2.2%で、平年(6.4%)より少なかったが、もみ枯細菌病の発生箇所率は2.2%で、平年(1.1%)、苗立枯細菌病の発生箇所率は2.2%で、平年(0.0%)よりやや多かった。
 - ・ 4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ 育苗資材の衛生管理を徹底する。
 - ・ 種子消毒を徹底する。
 - ・ 温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、催芽前または催芽時に食酢処理又は生物農薬を併用し防除効果を高める。
 - ・ 出芽期、緑化期の温度は30℃を上回らないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
 - ・ 移植時期の繰り下げに伴い、育苗期間が高温に遭遇し易くなるので、ハウスの適正な温度管理に努める。
 - ・ 防除指針（29年度）：11～19 ページ参照

3 ばか苗病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・ 前年の発生箇所率が2.2%で、平年(7.5%)より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 種子消毒を徹底する。
 - ・ 育苗資材の衛生管理を徹底する。
 - ・ 温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、生物農薬の併用で防除効果を高める。
 - ・ 防除指針（29年度）：11～15 ページ参照

Ⅱ 大 麦

1 雲形病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・近年の発病が少なく、種子の保菌程度が低いと予想される。

(3) 防除対策

・排水対策を徹底する。

・防除指針（29年度）：48ページ参照

2 うどんこ病

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・3月10日調査の発病度は0で、平年(0.2)よりやや低かった。

(3) 防除対策

・防除指針（29年度）：47ページ参照

Ⅲ 野 菜

1 タマネギのべと病

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・10月中旬～12月の気温が平年より低く推移した。

(3) 防除対策

・排水対策を徹底する。

・防除指針（29年度）：114ページ参照

Ⅳ 果 樹

1 リンゴの黒星病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・前年の発生量は少なかった。

・4月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

・病原菌は落葉上で越冬し、春以降、落葉上から子のう胞子を飛散させることから、落葉の処理（罹病葉を集めては場外に持ち出すか焼却、すき込み処理等）を徹底する。

- ・ 4月下旬～5月上旬の開花期前後が本病の最重要防除時期であるので、防除は丁寧に実施する。なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の開花始期は4月23日、開花盛期は4月27日である。
- ・ 開花期前後の散布間隔が開き過ぎないように注意する。
- ・ 防除指針（29年度）：150, 153, 154, 158, 159 ページ参照

2 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
- ・ 前年の発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
- ・ 病原菌は落葉上で越冬し、春以降、落葉上から子のう胞子を飛散させることから、落葉の処理（罹病葉を集めてほ場外に持ち出すか焼却、すき込み処理等）を徹底する。
 - ・ 4月から子のう胞子の飛散が始まるので、定期防除に努める。
 - ・ 防除指針（29年度）150, 153, 154, 158, 159 ページ参照

3 リンゴのうどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
- ・ 一部産地で前年の発生量がやや多かった。
- (3) 防除対策
- ・ うどんこ病の被害枝、一次発生花（葉）そうは見つけ次第せん除する。
 - ・ 開花直前から落花20日後頃までが本病の重要防除時期であるので、防除は丁寧に実施する。
 - ・ 防除指針（29年度）：150, 153, 154, 158, 159 ページ参照

4 リンゴのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：**やや早い**
- (2) 予報の根拠
・ 前年の発生量は平年並であった。
【早発要因】
- ・ 近年、県内におけるハダニ類の初発は平年より早まる傾向にある。
- (3) 防除対策
- ・ マシン油乳剤による防除は発芽直後の時期を逸しないよう実施する。なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽日は3月25日である。
 - ・ 越冬密度を下げるため粗皮削りを励行する。
 - ・ 防除指針（29年度）：150, 160 ページ参照

5 リンゴのリンゴコブアブラムシ

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・マシン油乳剤による防除は発芽直後の時期を逸しないよう実施する。なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽日は3月25日である。
- ・越冬密度を下げるため粗皮削りを励行する。
- ・防除指針（29年度）：150, 160 ページ参照

6 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・近年、多発生傾向であったが、防除対策の徹底がなされている。

- (3) 防除対策

- ・病原菌は落葉上で越冬し、春以降、落葉上から子のう胞子を飛散させることから、落葉の処理（罹病葉を集めてほ場外に持ち出すか焼却、ロータリ耕によるすき込み処理等）を徹底する。
- ・4月中下旬の開花期前後から5月が本病の最重要防除時期であるので、防除は丁寧を実施する。なお、果樹研究センターにおける平年の「幸水」の開花始期は4月19日、開花盛期は4月21日である。
- ・芽基部病斑は見つけ次第処分する。
- ・開花期前後の散布間隔が開き過ぎないように注意する。
- ・防除指針（29年度）：161, 164, 165, 168 ページ参照

7 ニホンナシのニセナシサビダニ

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策

- ・越冬密度を下げるため粗皮削りを励行する。
- ・発生の多い園地では、4月中下旬の落花直後にハチハチフロアブル2,000倍を散布する。
- ・防除指針（29年度）：161, 167, 169 ページ参照

8 ブドウの黒とう病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策

- ・発芽前及び発芽直前の時期を逸しないように防除を実施する。なお、果樹研究センターにおける近年の露地栽培「巨峰」の発芽時期は4月14日である。
- ・防除指針（29年度）：170, 173 ページ参照

9 ブドウの晩腐病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
・前年の発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
・発芽前及び発芽直前の時期を逸しないように防除を実施する。なお、果樹研究センターにおける近年の露地栽培「巨峰」の発芽時期は4月14日である。
・防除指針（29年度）：170, 173 ページ参照

10 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
【少発要因】
・前年の発生量は少なかった。
- (3) 防除対策
・薬剤がかかりやすいよう整枝せん定を確認する。
・越冬密度を下げるため粗皮削りを励行する。
・休眠期防除を実施する。
・防除指針（29年度）：175, 178 ページ参照

11 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
・前年の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
・せん孔細菌病の被害枝、春型枝病斑は見つけ次第せん除する。
・4月は初期の予防に重要な時期であるので、開花直前防除以降、散布間隔が開き過ぎないように注意する。なお、果樹研究センターにおける平年の「あかつき」の開花始期は4月11日、開花盛期は4月14日である。
・風当たりの強い園地では防風ネットを設置する。
・防除指針（29年度）：179, 181, 183 ページ参照

V 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：やや遅い
- (2) 予報の根拠
・4月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
【遅発要因】
・萌芽は平年より遅れている。
- (3) 防除対策
・発病株の抜き取りと薬剤散布による防除を確実に行う。
・防除指針：195 ページ参照。

2 チューリップのモザイク病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
- (2) 予報の根拠
・前年のモザイク病の発生は並であった。
- (3) 防除対策
・モザイク病発病株の抜き取りの徹底とアブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
・防除指針：196、220～221 ページ参照。

3 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
・前年の発生量は並であった。
・4月の気温はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
・防除薬剤の定期的な散布とモザイク病発病株の抜き取りを徹底する。
・防除指針：196、220、221 ページ参照

～農薬危害防止～

- 1 農薬の保管は適切に→必ずカギがかかるようにする。
- 2 周辺環境への配慮を→農薬が飛散しないよう努める。
- 3 防護装備を正しく着用→マスク、保護メガネ、防除衣を着用

北陸地方 3か月予報

(3月から5月までの天候見通し)

平成30年2月23日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

3月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

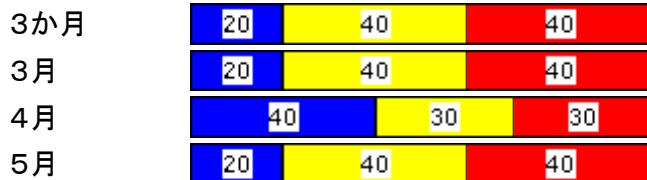
4月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

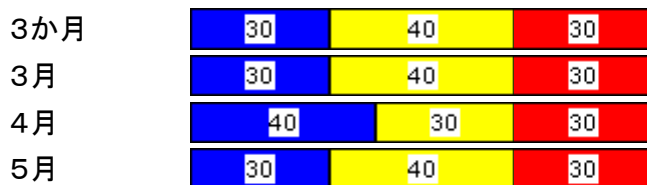
【気 温】

[北陸地方]



【降 水 量】

[北陸地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)